ＪＡＣ神奈川支部報　　創刊号

３月１９日に設立総会開催　ＪＡＣとして３３番目の支部

総会報告

平成 28 年 3 月 19 日、神奈川大学 1 号館（横浜市神奈川区）において日本山岳会神奈川支部設立総会が開催された。

神奈川在住のＪＡＣ会員約 400 名に呼びかけ、134 名が加入。総会への出席者 58 名、委任状 52 名、合計 111 名で総会は成立した。

主な決定事項は内容は以下の通り

1.支部会員数：134 名

2.支部会費：なし。

連絡はできる限り電子メールを使用することで通信費を抑え、支部会費は取らない。

ただし、郵送希望者は有料（1000 円）

支部所属の会員の 84%は電子メールが使用可能。

3.役員

支部長：込田伸夫（No.9546）

副支部長：井村英明（No.5772）五十幡広樹（No.14766）

事務局長：寺井素子（No.15600）

事務局補佐：森武昭（No.9620）

会計：青木まゆみ（No.15793）

広岡正敏（No.14863）、多田友行（No.15688）、

中谷康司（No.15433）、植木貞一郎（No.15450）、長島泰博（No.15418）、早川正志（No.13956）

監事：川俣俊一（No.5007）、砂田定夫（No.7863）

顧問：堀井昌子（No.8852）、中山茂樹（No.11319）、大槻利行（No.13019）、落合正治（No.13517）

4.事業計画

当面は月１回の山行を実施し、支部会員の理解と親睦を深め、次年度からイベント的なことにも取り組んでいく。

神奈川支部の特長は、役員の半数が若い会員で構成されていることであり、活発な支部活動が期待できる点である。

総会終了後、同大学の食堂を利用し記念パーティーが開催された。パーティーには小林会長をはじめとする本部役員の方々、近隣の支部からも支部長が参加し、盛り上がった。支部役員の半数が若い会員で構成されていることに関して、「神奈川支部の目指す方向性は、今後のＪＡＣのあり方に新風を吹き込むのでないか」という挨拶が印象的であった。

込田支部長から

この度、日本山岳会と縁の深い神奈川の地に、日本山岳会の皆様の多大なる御尽力によりまして、丹沢をはじめとする、自然豊かなこの地域に神奈川支部が設立されることは、望外の喜びでございます。砂田様の講演にもありますように、横浜及び神奈川県は、日本山岳会初代会長となった小島烏水の育った地でもあり、日本山岳会とは非常に関係の深いところです。また私の職場からも、大山をはじめ丹沢の山並を間近に見ることができますが、烏水自身、岡野金次郎とともに丹沢に出かけるなど、神奈川の山とも深いつながりを持っています。加えて日本の近代登山や、日本山岳会誕生に大きな影響を与えたウェストンも、当時横浜在住であり、横浜の地と日本山岳会との不思議な縁を感じる次第であります。幕末の開国と、それに続く明治時代、文明開化の一大中心地となり、これに伴っていろいろな西洋文化が日本に流入してきたのが港町横浜であり、ヨーロッパ式の近代登山が紹介されたのも、この大きな流れの一環といえましょう。小島烏水もこのような時代の中でラスキンの影響を強く受け、ウェストンとの出会いによって、日本山岳会の設立へと至ります。神奈川県はこの意味でも、まさに「日本山岳会発祥の原点」ともいえる地域ではないでしょうか。近代登山より遥か以前にも、日本では富士山や立山への信仰登山が行われ、筑波山が『万葉集』に詠まれています。一方、ウェストンの育ったヨーロッパの文化背景においても、ゼウスのオリンポス山、ノアの箱船伝説のアララト山、モーゼのシナイ山、またハンニバルやナポレオンのアルプス越えなど、山に関する伝説やエピソードは数多く見受けられ、洋の東西を問わず、古来、山は人間の生活や歴史・文化に大きく関わってきたといえるでしょう。神奈川支部は活気あふれる優秀な若い会員が多いという点で、日本山岳会の活性化にも大きく貢献する支部となることを確信しております。神奈川支部の会員も、他の会員の皆様と同じく「山が好き」で、「山を愛し」、「山を楽しみ」、「山を語る」という、共通の認識を有する人たちの集まりです。日本山岳会の皆様のご指導、ご教示を賜りながら、他の地方支部と同様、神奈川支部会員の皆様とともに、素晴らしい支部にしていく決意をここに表明いたします。

（込田伸夫）

↓挨拶する込田支部長

記念講演の内容

総会に先立ち落合監事、平出和也氏による記念講演会が開催され、総会終了時に砂田監事から横浜支部創設の興味深い話を披露いただいた。

セブンサミッツ制覇からＧ＆Ｇ計画への歩み

2001 年から行われた同山岳部の七大陸最高峰制覇の取り組みの紹介で、監督の落合正治氏から講演をいただいた。内容は新入部員が山岳部に入らないという危機的状況からの復活への歩みで、アコンカグアからはじまり、エルブルース、キリマンジャロと順調に進んできた遠征が北米大陸のデナリで悪天候と火災、学生隊員のクレバス転落という致命的惨事に遭遇し、それを克服して登頂を果たしたことや、チョモランマでは高度障害に苦しめられながらも登頂、その帰路意識を失った隊員を真夜中 6 時間かけて救助作業をしたこと、最後の南極ビンソンマシフでは号泣したという登頂の瞬間などが話され、本人たちが言う人も力量も金ない「三ないクラブ」の幾多の苦難の乗り越えての感動の講演で、聞いているものも熱いものを感じた。最後に昨年行われたタサルツェ遠征登山の報告もあり、現役学生も参加しての熱っぽい講演であった。

未知への挑戦

記念講演の第２弾はいよいよ平出和也氏の登場である。氏は日本人としてはじめてピオレドール賞を受賞した世界的な登山家・山岳カメラマンであるが、神奈川県横浜市にご家族とともにお住まいの日本山岳会会員でもある。神奈川支部設立にあたり記念講演をお引き受けいただいた。

講演は氏のプロフィール、幼少期の山との出会い、陸上競技（競歩）に明け暮れた学生時代から始まり、登山への転進、ピオレドール賞をうけたインド・カメット峰をはじめとした数々の活躍の軌跡へと続いた。その登山の姿勢は「誰も知らないいい山へいきたい」「だれもしたことのないチャレンジをしてみたい」という探究心、「すべてを自分の力と責任において行いたい」という独立心、スポンサーに依らない徹底したアマチュアリズムによって貫かれている。氏は自らにとっての転機となった山としてシブリン、カメット、アマ・ダブラムの３峰を挙げ、そこでの経験を語った。我々は会場にいながらにして未知への挑戦を続けるトップクライマーの世界の一端に触れることができた。同時に未踏の地がほとんど失われたこの時代にあっても魅力ある課題を探求し続ける気持ちがあれば冒険はまだまだ無限に存在するという氏のメッセージも伝わってきた。それはわれわれ神奈川支部にとっての何よりの激励のメッセージであった。これからもサポートやアドバイスをするので必要な時はいつでも声をかけてほしいとの暖かな言葉もいただき１時間の講演時間は瞬く間に終了した。（植木）

日本山岳会創立と横浜支部

日本山岳会創立の端緒を遡ると、横浜在住の小島烏水（久太、のち初代会長）と岡野金次郎という２人の青年の出会いに行き着きます。2 人は 1902 年槍ヶ岳に登頂、日本人による近代登山の幕を開けた画期的な山行でした。その後岡野が偶然 W・ウェストンの著書『日本アルプスの登山と探検』を見つけたことから、当時横浜に滞在中のウェストンをつきとめて面談、小島を含めた交友に発展し、ウェストンが山岳会設立を勧め、1905 年７人の発起人により山岳会が創立されました。日本山岳会創立の第１

↓砂田監事

幕は横浜が舞台となったのです。創立の翌年、発起人の１人でやはり横浜在住の高野鷹蔵と小島が委員となっていち早く「横浜支部」を設立し、事務所を高野方（本町）に置きました。発起人の１人、高頭仁兵衛（式）が「新潟県支部」を立ち上げたので、２支部が最初の支部となりました。横浜支部は会員も増え、1917 年支部大会を開催、展覧会や講演会も実施、同年有志晩餐会も開催し、1918 年には神奈川県と横浜市の共催によるスライド講演会など開催しています。しかし、中心となった高野は大病を得て会務を離れ、関東大震災で家屋と山岳資料を焼失し苦難の時期が続く。小島はすでに米国へ赴任しており、横浜支部の活動は記録上消滅しました。横浜支部の灯が消えて約１世紀、神奈川支部設立の日を迎え、感慨深いものがあります。（砂田定夫）

YOUTH 活動の抱負

このたび神奈川支部設立にあたって、支部内にも YOUTH 部門を設立することができ、メンバー一同、この恵まれた環境に大変感謝をしております。

山岳部に所属していたメンバーもおりますが、多くは山岳会へは所属せず、主に個人山行で登っていたメンバーも多く、それぞれ、紹介や、講習会を通じて仲間となりました。

↓五十幡副支部長

ＪＡＣに入会したことにより、登山技術の習得はもちろん、パーティーでの山行や、ジャンボテントでのテント山行を経験することができました。大人数でのテント泊は何ともすばらしく、諸先輩方と車座になって、時にはお酒を飲みすぎるものもおりますが、個人山行では決して味わうことができない多くのものを得ることができました。

神奈川 YOUTH の活動はこれからですが、現在も本部の YOUTH メンバーで積極的な活動をしているメンバーも多く所属しており、支部活動を盛り上げていくとともに、本部の YOUTH の活動や、他支部の YOUTH とも積極的な連携をとっていきたいと思います。

（YOUTH 委員会　五十幡広樹）

【創立総会でのスナップ】

↓挨拶をいただく神崎前日山協会長

↓懇親会中締め（森前ＪＡＣ会長）

第１回支部山行報告　弘法山

春らしい陽気の中、穏やかな晴天に恵まれ神奈川支部設立記念山行は、丹沢の麓　弘法山・権現山にて執り行われた。集合場所の鶴巻温泉駅には総勢 41 名もの会員・関係者が集まった。年齢は 3 歳から 80 歳すぎまで幅広く　日本最古の山岳会らしいパーティーとなった。鶴巻側からの山道は適度にアップダウンもありハイキングコースとしては歩きごたえのあるものであった。大パーティーではあったが、各会員の協力のもと整然と行動し、他の登山者とのす

れ違いもスムーズであった。富士山から相模湾まで一望できる権現山山頂には葉桜が残っており、花びらの舞う中でみなで昼食と懇親を楽しんだ。込田支部長より歓迎のお言葉をいただき、和気あいあいとした中でこれからのクラブライフについて会員同士熱く語り合い、大いに盛り上がった。次回の山行での再会を約して秦野駅前にて解散、帰途についた。(植木貞一郎)

↓第１回支部山行権現山にて

（コースタイム）鶴巻温泉駅 9:30 集合　10:00 出発－10:40 吾妻山（休憩）－11:10 善波峠の手前の尾根（休憩）－11:50 弘法山（休憩）－12：15 権現山着　　昼食・懇親　14:15 頃権現山発―15：00 秦野駅着

（参加者）野田憲一郎、越田和男、今村寛、砂田　定夫、込田伸夫、森武昭、石村日満子、中山茂樹、富岡一郎、西田進、小松忍、内田敏子、芦澤敏夫、落合正治、日出平洋太郎、早川正志、稲原明、瀬戸英隆、大字進、五十幡広樹、秋山典彦、永井泰樹、五十幡愛子、瀬沼信一、長島泰博、中谷康司（健太郎、泰二郎、明日香）、植木貞一郎、酒井俊太、寺井素子、三枝光吉、多田友行、青木まゆみ、平林力松

（支部会員以外）越田光江、今村正子、森静子、植木康一郎、門馬栄菜

支部として初の公式行事

越後支部支部懇談会へ参加

平成 28 年 4 月 9 日から 10 日に新潟市岩室温泉にて全国支部懇談会が開催され、神奈川支部として込田支部長以下 4 名で参加してきました。

岩室温泉は弥彦神社参拝の精進落としの場として栄えてきた新潟の奥座敷と言われる静かな温泉です。全国から 267 名の参加があり、たいへん盛況な懇談会となりました。石澤進氏（元新潟大学理学部教授）による「弥彦連山の植物」、ＪＡＣ会員である平田大六氏の「山・人・酒」の二つの講演がありました。弥彦連山の植物では雪椿と藪椿の見分け方など興味深い話もあり、熱心に聞き入りました。

新潟と言えば酒処です。引き続き行われた交流会ではたくさんの日本酒が次々と開封され、淡麗な味を楽しみました。宴の中で新しくできた支部として神奈川支部の紹介をいただき、支部長が壇上からご挨拶をいたしました。

翌日は弥彦山での親睦登山が予定されていましたが、京都滋賀支部の会員の方が入浴中倒れて亡くなるというアクシデントがあり、公式行事はすべて中止となりました。個人の責任で実施するということで東京多摩支部の会員と八枚沢登山口から弥彦山まで歩きました。とにかく花の多い山稜で、イカリソウ、カタクリなどが足元にびっしりと咲いており、関東近郊では見られない光景でした。椿もいくつかありましたが、昨日の講演の成果で参加者は花弁やおしべを熱心に確認していました。弥彦山山頂で昼食の後、山岳会創設メンバーであり第２代会長であった高頭仁兵衛翁寿像の前で記念撮影をし、バスにて岩室温泉に下りました。

↓弥彦山高頭仁兵衛翁寿像の前にて

役員会報告

日時　4 月 21 日 19 時～21 時
場所　神奈川工科大学横浜事務所
議題
・27 年度会計報告
・創立記念山行報告
・支部旗作成
・近隣支部との交流
　東京多摩支部、埼玉支部の３支部で 10 月 29～30 日、奥多摩御岳山にて懇親会（宿

坊泊)、大岳山山行
静岡支部と箱根にて 11 月に実施。日程調整中

・神奈川支部の今後の活動方針
支部の山行等活動は支部会員であればどなたでも参加できる山行委員会と YOUTH 委員会で策定し実施していきます。将来的には山行委員会と YOUTH 委員会は分かれて活動することも考えていますが、支部発足間もないこともあって当面は合同で活動をしていきます。山行計画の立案や実施について参加いただける方は、隔月の第 3 木曜日 19 時開催の同委員会へ参加してください。(第 1 回は 5 月 19 日)
参加される場合は、以下に連絡の上、参加してください。
山行委員会：井村 090-5822-9539
imurahide@yahoo.co.jp

・支部役員の役割分担（今回決定分のみ）
山行委員会　井村英明
YOUTH 委員会　五十幡広樹、中谷康司
遭難対策委員会　早川正志、植木貞一郎
広報委員会　植木貞一郎、多田友行、長島泰博

今後の予定

第 2 回支部山行
日　時：5 月 15 日（日）
場　所：三ノ塔
コース：諸戸―ヨモギ平―三ノ塔―大倉
概　略:三の塔から北東に伸びる静かな尾根を辿って山頂に立ち、大倉まで長い三ノ塔尾根を下ります。歩程約 5 時間。
集　合：8 時 30 分　秦野駅改札
担　当：長島泰博
y-naga.0128.k59@kxe.biglobe.ne.jp
090-5554-8345

第 3 回支部山行
日　時：6 月 18 日（土）
場　所：鎌倉
コース:　北鎌倉―六国見山―明月谷―鎌倉アルプスー十二所ー鎌倉巡礼道ーまんだら堂ー名越切通しー鎌倉駅
概　略:北鎌倉から六国見山を経由して鎌倉アルプスを縦走、鎌倉巡礼道を進み名越切通しを通る鎌倉を望める外輪山を歩きます。歩程約 5 時間。
集　合：9 時 45 分、北鎌倉駅(上りホーム側改札)
担　当：早川正志
haya@olive.ocn.ne.jp
090-8589-4534

第 4 回支部山行
7 月以降の支部山行については 5 月の山行委員会・ユース委員会にて決定する。

5 月の山行・YOUTH 委員会
5 月 19 日（木）19 時～
神奈川工科大学横浜事務所(横浜駅東口ウィスポートビル 10F （旧日産横浜ビル)
※カモシカスポーツの入っているビルです。
6 月の役員会
6 月 16 日（木）19 時～
神奈川工科大学横浜事務所

あとがき

設立初回の支部報を「創刊号」として取りまとめました。体裁、内容等ブラッシュアップが必要でしょうが、時間の関係もあり取り急ぎ活動状況をまとめてみました。今後、活発な支部活動の一助となるよう工夫していきたいと思いますので、よろしくお願いします。(泰)

公益社団法人日本山岳会神奈川支部　支部報創刊号
発　行：日本山岳会神奈川支部　支部長：込田伸夫
編集者：植木貞一郎、多田友行、長島泰博
平成 28 年 5 月 1 日　　毎年　3 月 6 月 9 月 12 月の上旬に発行予定、